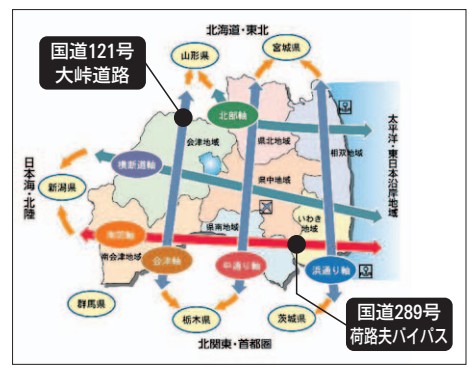


国道121号「大峠道路」全線開通

大峠は、今から四百年前の戦国時代に初めて開かれ、その後、米沢街道として長い間、人々の交流や物流を支えてきました。現在、国道121号となり、国と福島県が整備を進めている会津縦貫道（会津縦貫北道路、会津縦貫南道路）とともに、本県の縦横6本の連携軸の一つである会津軸を形成し、県内の生活圏（会津生活圏、南会津生活圏）と県外を結ぶ、県土の骨格となる基幹的な道路です。

しかし、道幅が狭く、急カーブ・急勾配が連続し、冬期間は積雪による通行止めを余儀なくされていたことから、昭和49年に全面的な整備に着手し、平成4年8月には大峠トンネルが開通し、その後も、関係の皆様との並々ならぬ御尽力をいただきながら、この度、2.6km区間が完成し、事業着手から37年の歳月をかけ、平成22年9月11日(出)に無事全線開通することができました。

福島・山形両県民の悲願であった全線開通は、雪や災害に強く安全で信頼性の高い交通の確保に加え、広域的な交流・連携を促す基幹道路として、会津・米沢地域における観光の振興や企業誘致、産学官の連携、定住・二地域居住など、地域経済の活性化が期待されています。



事業着手から37年の歳月をかけ、平成22年9月11日(出)に無事全線開通することができました。



開通式



旧道状況



開通区間

国道289号「荷路夫バイパス」開通

一般国道289号は、新潟県新潟市を起点として、福島県の南会津、県南地方を経ていわき市に至る延長約305kmの幹線道路で、福島県の新しい総合計画「いきいきふくしま創造プラン」において、七つの生活圏を結ぶ県内6本の連携軸の一つ「南部軸」に位置付けられ、今後の県勢発展を支える重要な路線です。

しかし、いわき市田人町荷路夫地内は幅員が狭く、急カーブ、急勾配が連続する交通の難所となっており、幹線道路としての機能を果たせない状況となっていました。

このため、幅員狭小、急カーブ、急勾配の解消を目的として、平成11年度より根室工区、平成13年度より荷路夫バイパスの整備に着手しました。この地域は豊かな自然が残されていることから、環境への負荷をできるだけ少なくするため、動植物・生態系に配慮した「エコロード」として地元の方々とともに植樹等を実施してきました。荷路夫バイパスはトンネル・長大橋があり高度な技術を要する工区でありましたが、地元の方々の協力や応援をいただきながら整備を進め、平成22年10月3日(日)に開通することができました。

- 開通区間：延長 荷路夫バイパス 3.6km
- 主要構造物（整備区間の65%が構造物となっている。）
- 【朝日トンネル 1,175m 荷路夫トンネル 742m
- 朝日橋 80m 貝泊大橋 331m】



開通式

道の駅三駅「ふるどの・よつくら港・番屋」オープン

平成22年度に福島県内では、「道の駅ふるどの」「道の駅よつくら港」「道の駅番屋」の三駅がそれぞれオープンしました。

「道の駅ふるどの」(国道349号古殿町)：平成22年4月16日オープン

「道の駅ふるどの」は古殿町中心市街部から西方約2kmの田園地域にオープンしました。良好な立地条件を活かした休憩施設、地元特産品の販売、観光案内、地域情報発信及び地域連携の拠点としての活用が期待されています。



道の駅ふるどの

「道の駅よつくら港」(国道6号いわき市)：平成22年7月14日フルオープン

「道の駅よつくら港」は、いわき市四倉町(四倉漁港)に位置し太平洋岸を縦走する国道6号と豊かな漁場が広がる海が出会う絶好のポイントにあります。漁港という立地条件を活かした海産物や中山間地域の農産物を販売する直売所があり、それらの産物を使用した料理をフードコートで味わうことができます。また、当駅を舞台に「海と山の冒険隊」や「凧揚げ大会」等の地域間交流イベントが繰り広げられています。



道の駅よつくら港

「道の駅番屋」(国道352号南会津町)：平成22年10月20日オープン

「道の駅番屋」は、関東圏から館岩地域を訪れる際の玄関口にあり、地域の方がつくった無農薬野菜や手芸品、木工品などが売られています。隣接する木材加工保管施設「森の駅」では、地場産木材を利用した家具の販売やきのこの菌体験、薪割り体験などが行われる予定で、豊富な森林資源を活用し情報発信することで、地元農林業の活性化が期待されています。



道の駅番屋

平成22年度建設技術講習会「三方良しの公共事業改革」開催される

“住民よし”“施工者よし”“発注者よし”「三方良しの公共事業改革」講習会が、当協会の主催により開催されました。

経営コンサルタントで本改革実践の第一人者である岸良裕司氏が講演し、全国での成功事例をもとに「よりよいものを早く提供することが公共事業の原点」と説き、その実践例として「ワンデーレスポンスの効果」や「ボトルネックを素早く解消する工程管理の重要性」を丁寧に説明されました。最後に「受発注者の目的意識の共有」と「緊密な報連相＝ワンデーレスポンス」が欠かせないと締めくくりました。



日 時：平成22年10月8日(金) 場 所：郡山市労働福祉会館3F大ホール 講 師：岸良 裕司 氏
参加者：約140名(福島県・市町村職員等) 主 催：福島県建設技術協会 共 催：福島県・郡山市

「平成22年度第2回山岳トンネル設計・施工研究会」開催される



「山岳トンネル設計・施工研究会」は、トンネル設計・工事・積算担当者が定期的に情報共有を行うことにより、工事中の安全確保や工事の品質向上、技術力向上を図ることを目的に、本年度より始まった取り組みであり、10月13日に2回目の研究会を開催しました。

各建設事務所や(財)ふくしま市町村建設支援機構の担当者ら23名が参加し、菅野嘉元主幹兼副課長等が「情報化施工」「トンネル計画における調査」「トンネル工事における留意点」「トンネルの耐震対策」について講義を行った後、意見交換を行いました。

今後のテーマとして、現場管理の留意点、変位観測の範囲及び方法、経験者による苦労話等が提案されましたので、次回以降の研究会において対応していくこととなりました。また、技術の伝承の観点から、若い監督員にも参加してもらうべきとの意見がありましたので、積極的な参加をお願いします。

<研究会の実施状況>

研究会は、活発な意見交換がなされ、予定時間内に終了するのがやっとでした・・・。

事務局よりお知らせ

会費について：正会員 月会費700円(全建320円+福建380円) 準会員 年会費5,000円

納入方法は、「銀行振込」または「事務局へ持参」のどちらかでお願しております。

「銀行振込」の場合 振込銀行口座：東邦銀行県庁支店 普通口座 1719 福島県建設技術協会 会長 遠藤光一

*手数料はご本人の負担となります。 *準会員の方は、必ずご本人のお名前でお振り込みください。

「事務局へ持参」の場合 事務局所在：福島市杉妻町2-16 県庁土木部道路整備課内(本庁舎3階) 事務局員 小林晴弥

*旅費は支給できません。